



【調査の目的】

義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育政策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。さらに、そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

【実施校数】

小学校13校、中学校5校、義務教育学校1校

【実施児童生徒数】（教科に関する調査）

小6・義6年生 747名
中3・義9年生 725名

【調査内容】

①教科に関する調査

- ・小学校(国語, 算数, 理科) ※義務教育学校前期課程を含む
- ・中学校(国語, 数学, 理科) ※義務教育学校後期課程を含む

②質問調査(児童生徒に対する調査, 学校に対する調査)

※原則すべての児童生徒を対象にオンライン方式にて実施

【実施日】

令和7年4月17日(木) ※中学校理科は4/14~17の指定日

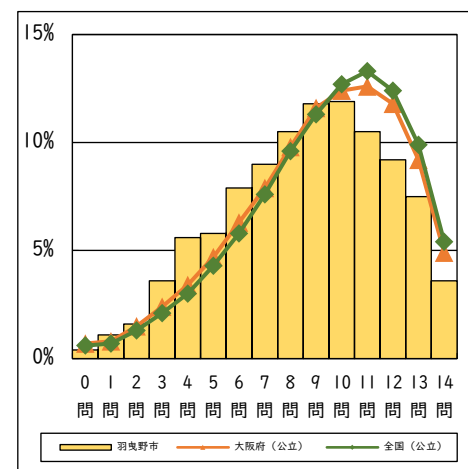
今回お知らせする結果は、学力や学習状況の一部であり、子どもたちの学力や学習状況、学校の教育活動などのすべてを表すものではありません。

小学校

国語

小学校国語	学習指導要領の内容		平均正答率(%)		
			羽曳野市	大阪府	全国
知識及び技能	言葉の特徴や使い方にに関する事項		76.1	77.0	76.9
	情報の扱い方にに関する事項		56.4	61.5	63.1
	我が国の言語文化に関する事項		76.5	80.3	81.2
思考力、判断力、表現力等	話すこと・聞くこと		59.4	65.0	66.3
	書くこと		64.1	67.1	69.5
	読むこと		51.1	56.1	57.5

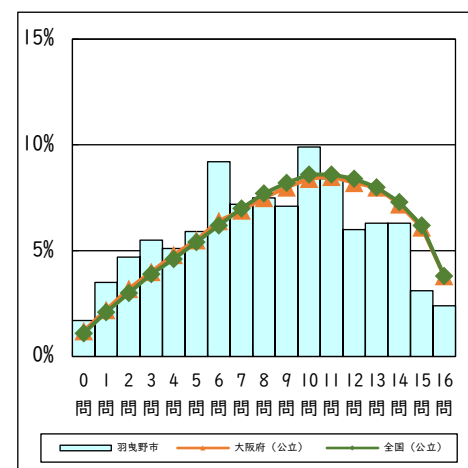
- 「書くこと」において2年連続で改善が見られました。(全国との比較)
- 漢字を文の中で正しく使うことができています。
- 目的に応じて文章と図表から必要な情報を見つけることに課題があります。



算数

小学校算数	学習指導要領の領域および評価の観点		平均正答率(%)		
			羽曳野市	大阪府	全国
領域	数と計算		57.2	62.4	62.3
	図形		49.7	55.7	56.2
	測定		48.0	53.8	54.8
	変化と関係		52.2	57.3	57.5
	データの活用		57.0	61.5	62.6
評価の観点	知識・技能		59.4	65.1	65.5
	思考・判断・表現		42.0	47.9	48.3

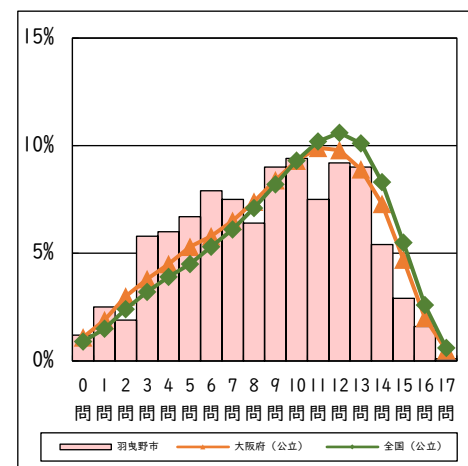
- 分母のちがう分数のたし算など、計算がよくできています。
- 棒グラフなど、グラフから項目間の関係を読み取ることができています。
- 計算の意味や分数の概念について数や言葉で説明する問題に課題があります。



理科

小学校理科	学習指導要領の領域および評価の観点		平均正答率(%)		
			羽曳野市	大阪府	全国
領域	エネルギー		41.0	43.9	46.7
	粒子		47.4	49.4	51.4
	生命		42.7	49.0	52.0
	地球		60.5	63.9	66.7
評価の観点	知識・技能		49.5	52.7	55.3
	思考・判断・表現		51.9	56.2	58.7

- 電流がつくる磁力や電磁石の強さについての知識が身に付いています。
- 種子の発芽の条件など共通点や違いをもとに表現することに課題があります。

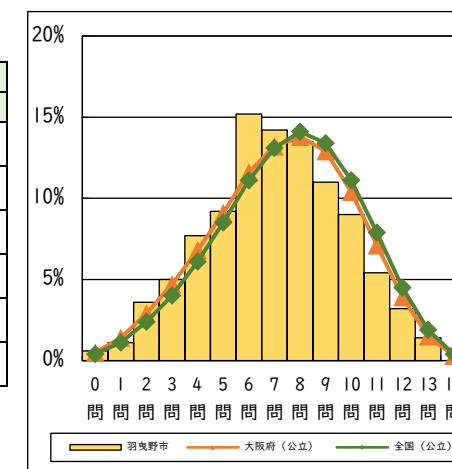


中学校

国語

中学校国語	学習指導要領の内容		平均正答率(%)		
			羽曳野市	大阪府	全国
知識及び技能	言葉の特徴や使い方にに関する事項		48.1	47.8	48.1
	情報の扱い方にに関する事項		-	-	-
	我が国の言語文化に関する事項		-	-	-
思考力、判断力、表現力等	話すこと・聞くこと		48.5	50.7	53.2
	書くこと		46.6	50.5	52.8
	読むこと		59.9	61.2	62.3

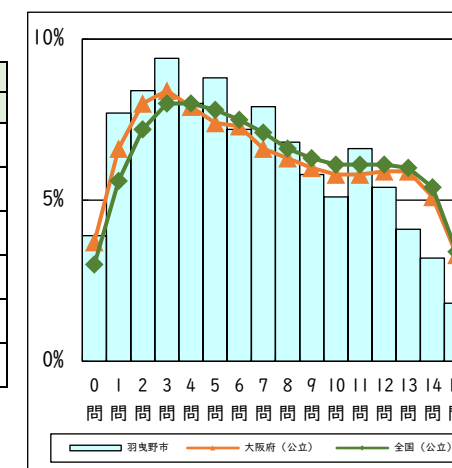
- 「読むこと」において2年連続で改善が見られました。(全国との比較)
- 事象や行為を表す言葉の理解や文脈に即した漢字を使うことができています。
- 表現の工夫や根拠を明確にして書くこと(記述式の問題)に課題があります。



数学

中学校数学	学習指導要領の領域および評価の観点		平均正答率(%)		
			羽曳野市	大阪府	全国
領域	数と式		39.2	42.4	43.5
	図形		42.4	46.2	46.5
	関数		40.8	46.3	48.2
	データの活用		52.9	54.9	58.6
評価の観点	知識・技能		50.4	52.9	54.4
	思考・判断・表現		32.2	37.4	39.1

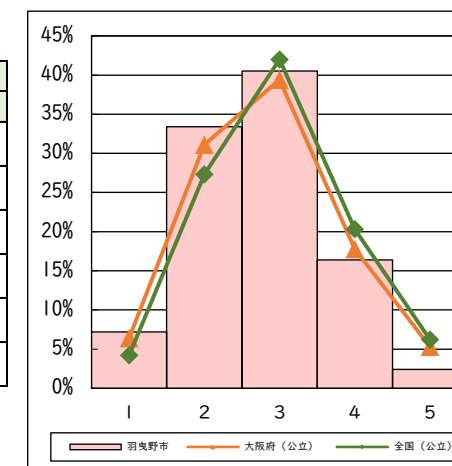
- 数量を文字式に表したり、目的に応じて式を変形することができています。
- 多角形の外角の意味など、基本的な知識が身に付いています。
- 関数の内容で、特にグラフから読み取った情報をもとに説明することに課題があります。



理科

中学校理科	全日程共通の公開問題における学習指導要領の領域および評価の観点		平均正答率(%)		
			羽曳野市	大阪府	全国
領域	エネルギー		56.4	52.7	51.9
	粒子		49.0	53.2	56.8
	生命		28.6	27.7	29.7
	地球		30.1	33.5	36.2
評価の観点	知識・技能		40.7	42.0	42.2
	思考・判断・表現		46.6	49.2	53.9

- 電気などのエネルギーや、生物などの生命に関する知識が見付いています。
- 身の回りの事象から生じた疑問や問題を解決するための課題設定をするに課題があります。



【参考資料】

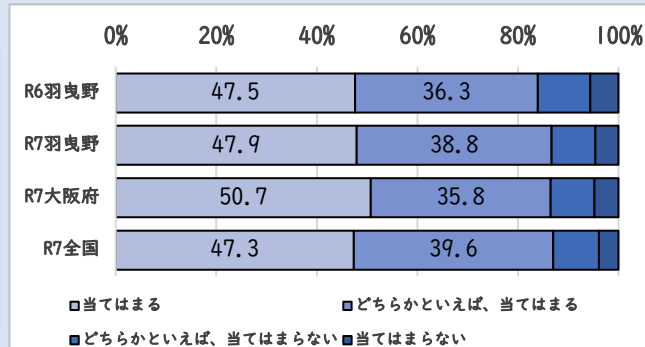
○国立教育政策研究所『令和7年度 全国学力・学習状況調査 報告書・調査結果資料』 <https://www.nier.go.jp/25chousakekkahoukou/>

○大阪府教育庁『全国学力・学習状況調査の結果』 <https://www.pref.osaka.lg.jp/0180080/shochugakko/zennkoku/>

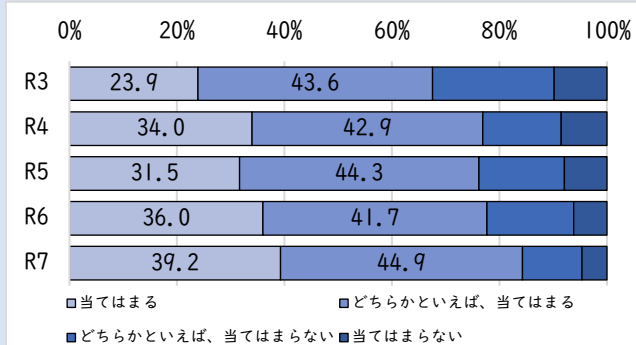
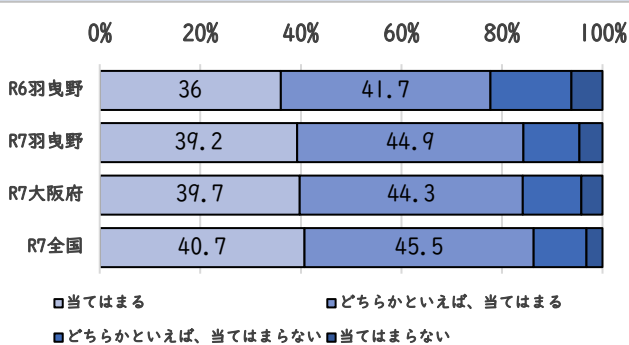
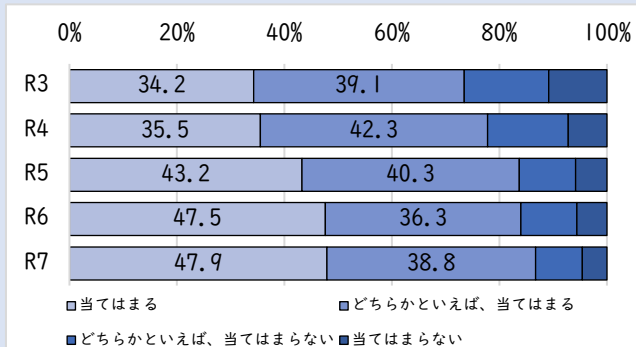
令和7年度 全国学力・学習状況調査の結果概要

ウェルビーイングに関すること

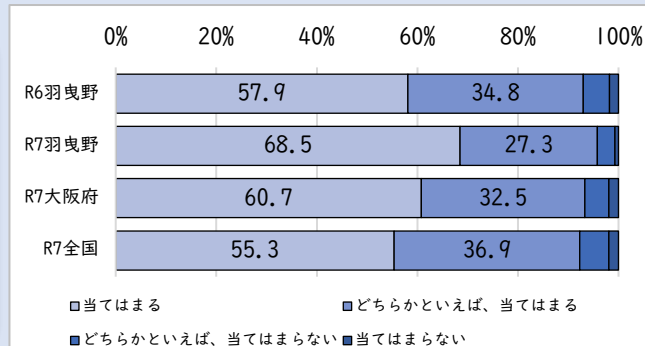
自分には、よいところがあると思いますか



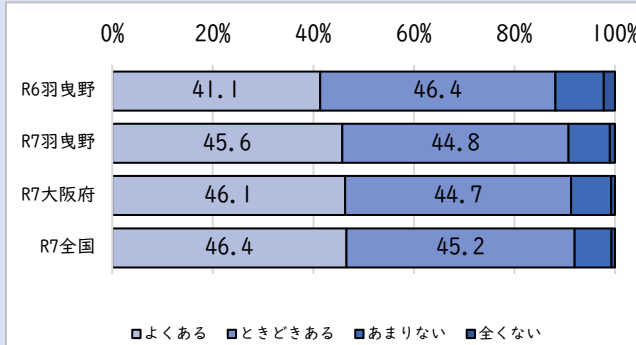
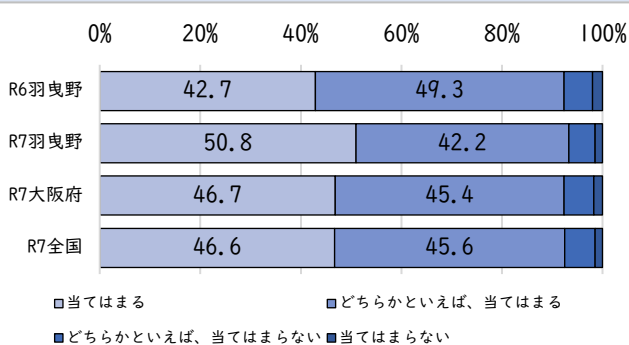
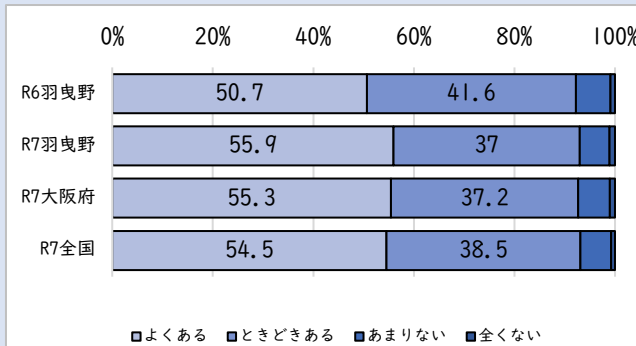
[R3～R7 羽曳野市の経年比較]



先生は、あなたのよいところを認めてくれていると思いますか



普段の生活の中で、幸せな気持ちになることはどれくらいありますか



ウェルビーイングとは、身体的・精神的・社会的に良好な状態にあることを意味します。本市では、「自分には、よいところがあると思いますか」の項目で小・中学校ともに年々改善傾向があります。学校における教員との関係性についても、小・中学校ともに改善傾向にあり、自己の成功体験や他者から認められる経験が、幸福感の向上につながっていると考えられます。

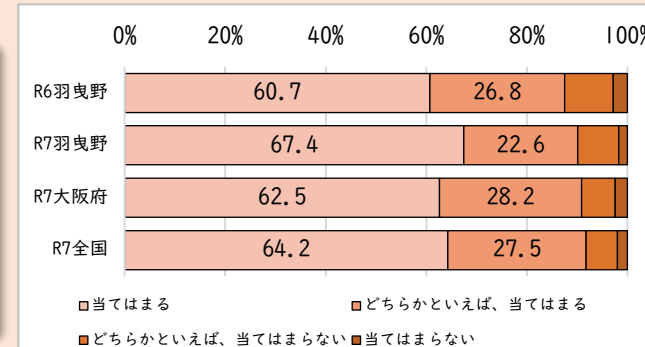
各質問で「当てはまる」「どちらかといえば、当てはまる」等と回答した児童生徒の割合の合計を「肯定的な回答」として考えています。

羽曳野市教育委員会

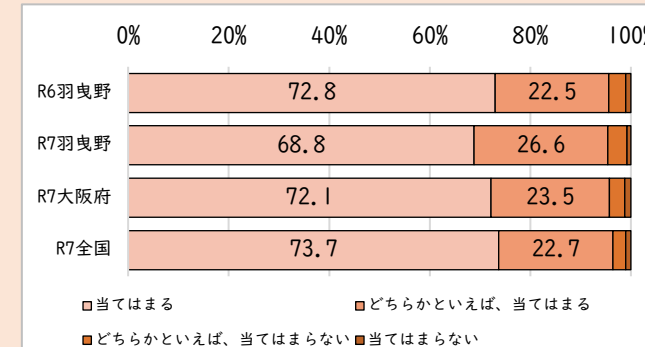


人とのかかわりに関すること

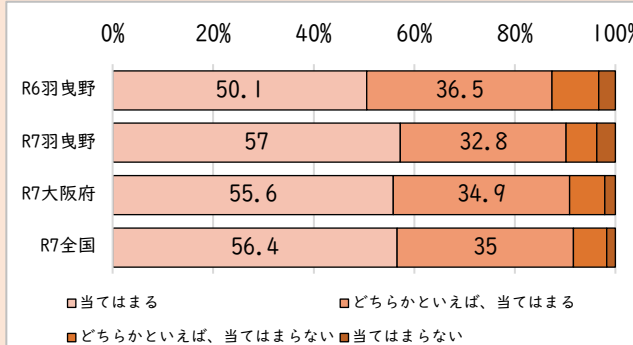
友達関係に満足していますか



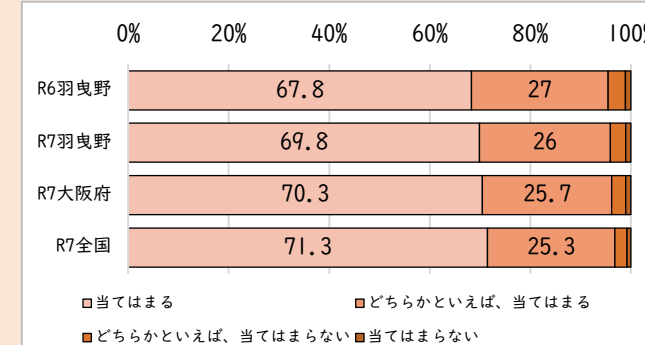
人の役に立つ人間になりたいと思いますか



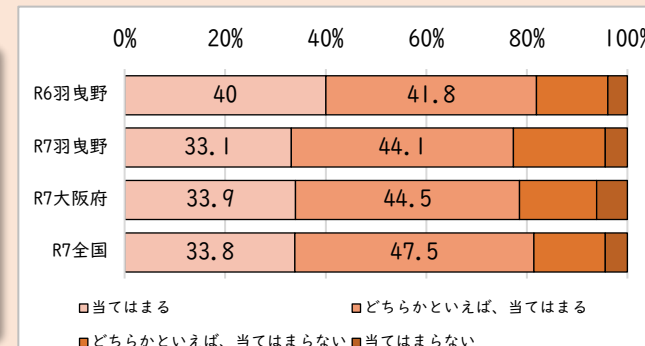
小学校



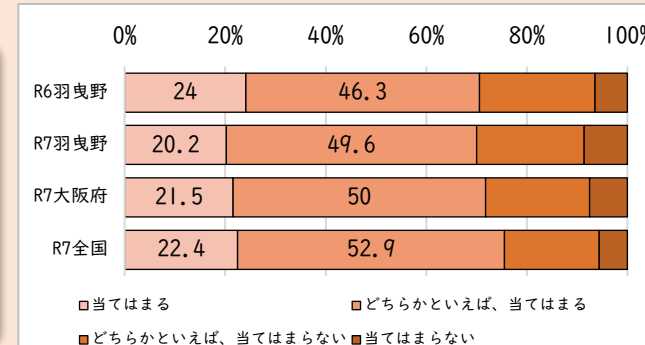
中学校



地域や社会をよくするために何かしてみたいと思いますか



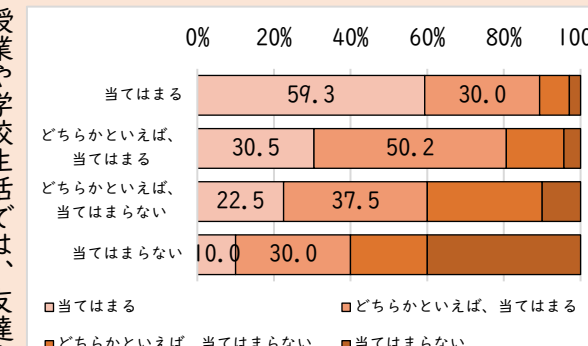
小学校



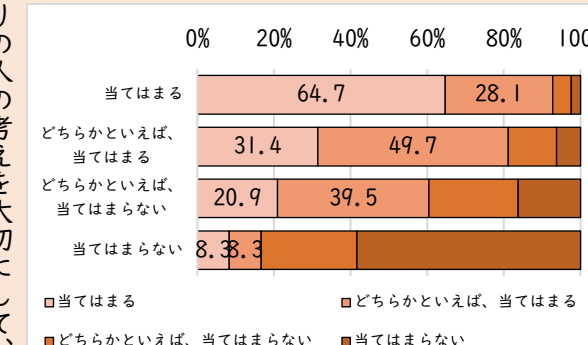
中学校

【協働的な学び】×【学校に行くのは楽しい】

学校に行くのは楽しいと思いますか



授業にや協力しな生活が、課題の達成や決断に力を入れている人組の考えを大事にしたい、お



各学校において、授業をはじめとする様々な場面で他者との関わりや集団づくりに取り組んでおり、友人関係に満足している児童生徒が増加しています。また、学校において協働的な活動に取り組んだ児童生徒ほど、学校に行くことを楽しいと感じています。一方で、他者の役に立つことや地域の役に立ちたいと考える児童生徒は減少しており、地域への愛着を育む学習が必要と言えます。

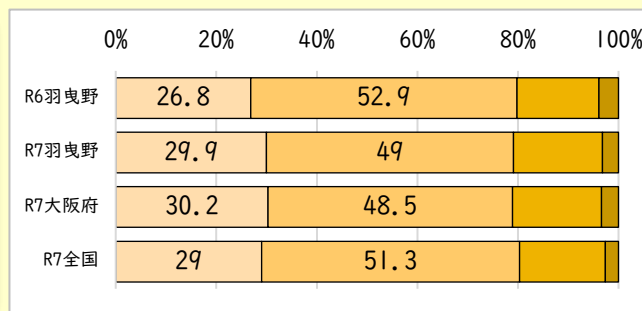
令和7年度 全国学力・学習状況調査の結果概要

授業・学習に関すること

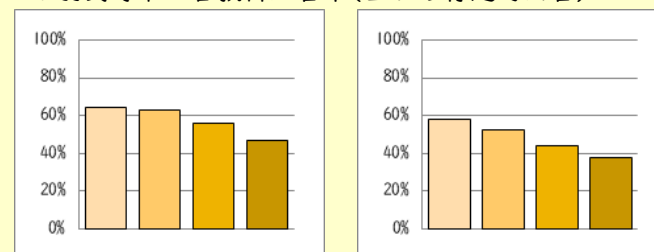
授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいましたか

■当てはまる ■どちらかといえば、当てはまる ■どちらかといえば、当てはまらない ■当てはまらない

小学校

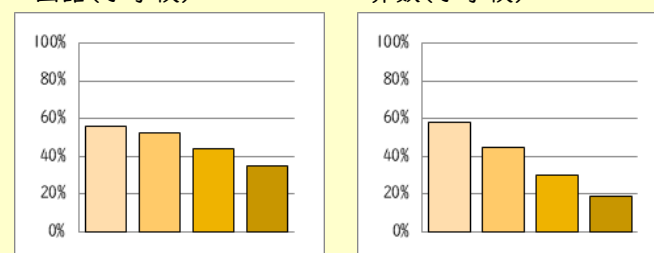


【主体的な学び×学力】
※羽曳野市の各教科正答率(左から肯定的回答)



国語(小学校)

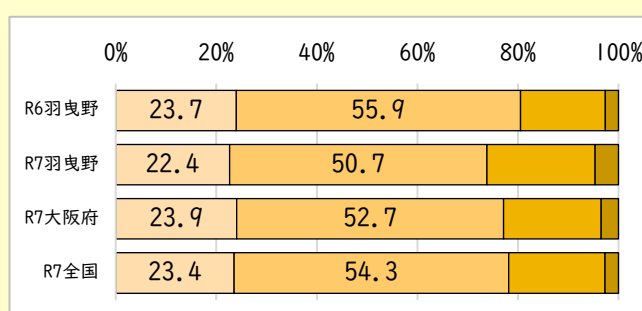
算数(小学校)



国語(中学校)

数学(中学校)

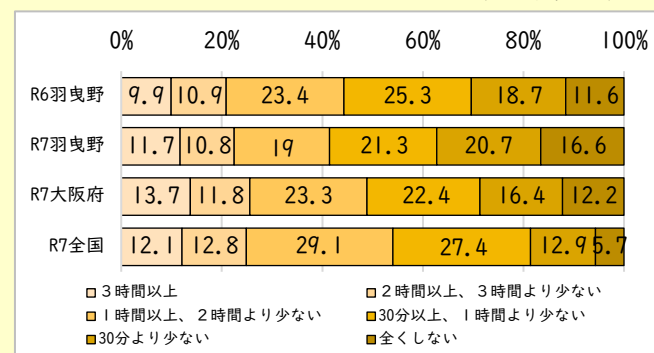
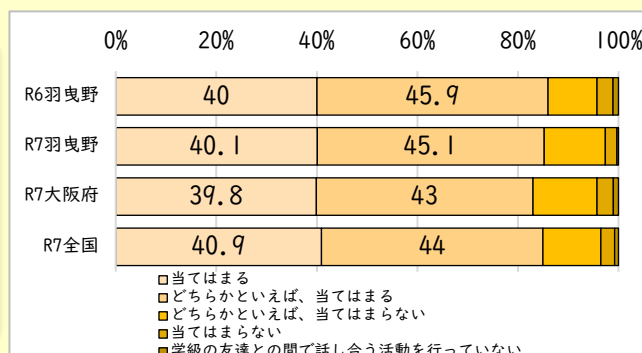
中学校



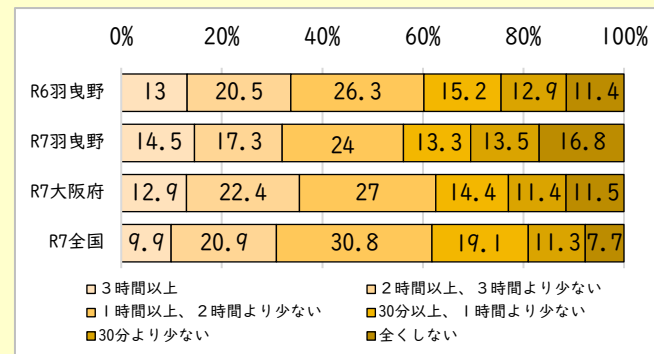
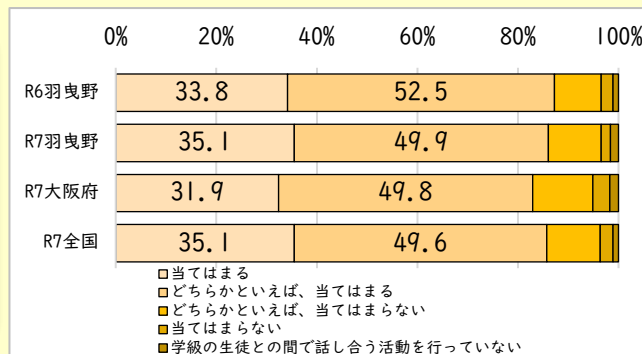
学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、新たな考え方に気付いたりすることができていますか

学校の授業以外に、普段(月～金)1日当たりどれくらいの時間勉強をしますか(塾等含む)

小学校



中学校



学習指導要領では、「主体的・対話的で深い学び」が求められています。本市では、小学校において学習に対して主体的に取り組んでいる児童の割合が改善されており、主体的に学習に取り組んでいる児童生徒ほど、小・中学校ともに各教科の正答率は高くなっています。対話的な学習については、中学校でも改善傾向が見られ、各校において授業改善が進められています。一方、家庭学習については、「30分より少ない」「全くしない」と回答している児童生徒の割合が増加しています。学校からの宿題を含め、「ドリルパーク」等を活用した日々の家庭学習の習慣づくりが必要であると言えます。

各質問で「当てはまる」「どちらかといえば、当てはまる」等と回答した児童生徒の割合の合計を「肯定的な回答」として考えています。

羽曳野市教育委員会



読書に関すること

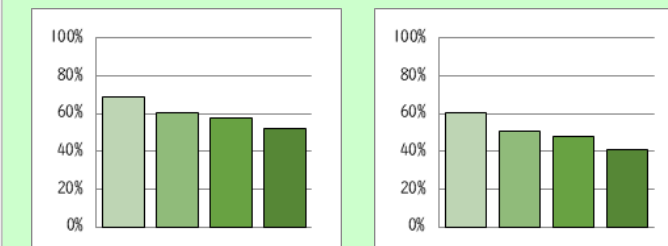
読書は好きですか

■当てはまる ■どちらかといえば、当てはまる ■どちらかといえば、当てはまらない ■当てはまらない

小学校

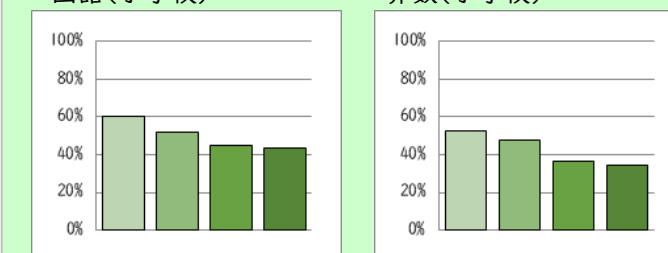


【読書が好き×学力】
※羽曳野市の各教科正答率(左から肯定的回答)



国語(小学校)

算数(小学校)



国語(中学校)

数学(中学校)

読書が好きな児童生徒については、全国的にみて減少傾向にあり、羽曳野市においても同様の傾向にあります。一方で、読書の好きな児童生徒ほど小・中学校ともに各教科の正答率は高くなっており、興味のある図書との出会いが学力向上と関連していると言えます。



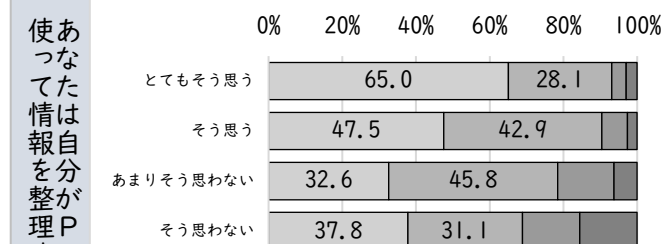
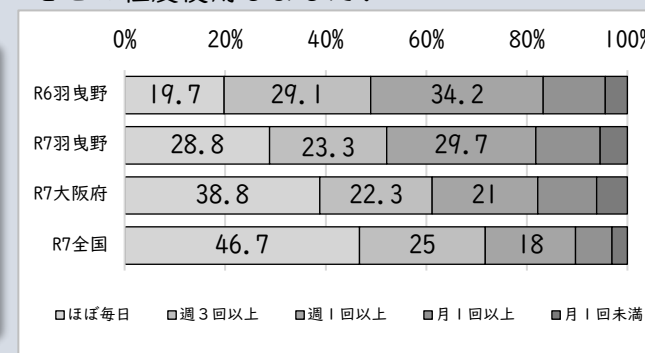
ICTに関すること

授業で、PC・タブレットなどのICT機器をどの程度使用しましたか

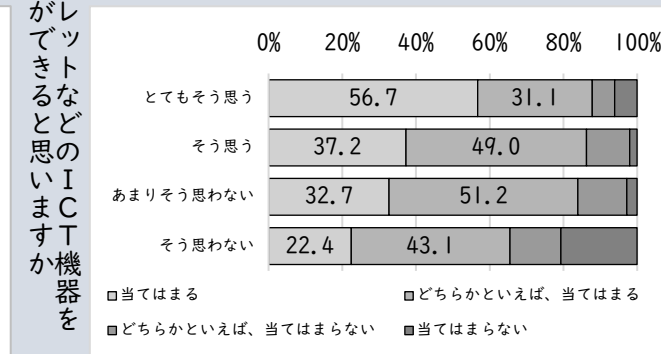
【ICT活用】×【自己肯定感】

自分には、よいところがあると思いますか

小学校



中学校



ICT機器を使用して情報を整理する(図表やグラフ、思考ツールなどを使ってまとめる)ことができると回答した児童生徒ほど、自己肯定感が高い傾向にあります。一方、授業や家庭学習における日常的なICT活用については、改善傾向にあるものの引き続き改善していく必要があると言えます。